

# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 東朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

#### 全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

#### 質問紙調査の結果分析

男女共に、運動やスポーツに対する関心や意欲は高い。学校での体育の学習を楽しんでいると感じたり、進んで参加していると答えたりする児童も多くいる。また、学習の振り返りを行うことで、できたりわかったりすることに繋がっていると実感している児童も多かった。これらは、年間を通して学校全体で取り組んでいる「東朽網っ子タイム」が好影響を与えていると考えられる。週二回、15分休みを使って走ったり、縄跳びに取り組んだりする「東朽網っ子タイム」は、運動習慣形成の土壌にもなっている。また、学習の終わりに学んだことを振り返ることで、運動技能の習得に繋がっていると考えられる。しかし、「ICTの活用」や「保健の学習を通しての運動、生活への応用」については肯定的な回答は低く、課題となっている。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○「ICTの活用」及び「保健の学習を通しての運動、生活への応用」を高めていくために、体育科学習の項目の中で「タブレット端末の活用」や「保健学習の充実」に取り組む。タブレット端末を活用することで、自己の動きを即座に確認することができ、課題や修正点を明確に捉えることができる環境づくりを行う。また、学習カードを使用することで、自己の動きの分析や次回の目標を定め、よりよい動きの習得を目指せるようにする。保健学習については、自分の生活との関連付けを図る授業の工夫を行う。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○東朽網っ子タイム…15分休みに運動場で、低、中、高学年に分かれて走ったり(一、二学期)、縄跳びをしたり(三学期)することで、体力向上と運動習慣の定着を図る。活動の様子を、学校通信や学年通信、学級通信等で配信することで、児童の意欲の継続や、各家庭への情報発信に繋げる。